

### この1年を振り返って

あらためてあつという間の1年でした。事業の柱として、①誰でもが地域に住み続けるための条件整備、②地域資源の保存・活用、③商店街や地域の活性化、④まちづくりの人材育成、をあげていますが、中で成果を上げたのは、地域資源の保存活用に関するものでしょう。これについては次ページの「活動の軌跡」で詳しくふれます。住み続けるための条件整備では、浜見台地区のみなさまにご協力いただき、タクシーを利用した生活交通について検討致しましたが、成立の条件等がなかなか難しく、他地区の視察も行った結果、追浜でどのような方法が適切なのかを原点に立ち戻って考えようとの状況に至っております。

商店街等地域の活性化では、ナイトバザール、Y・フェスタ追浜などに協力するとともに、ワイン寄席やジャズコンサートなど独自のイベントも開催しました。また新しい地域拠点「こみゅに亭カフェ」の運営にも関わっております。関東学院大学等大学との連携も、経済学部や人間環境学部などに広がりました。

新しい年度は、これらを踏まえてさらに充実した活動を行う所存ですが、これが会員のみなさまに見やすいよう、また参加しやすいよう、情報環境を整備しなくてはなりません。ホームページの開設、会報の定期的な発行など、今更ではありますが足元を固めて、再出発したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。  
(昌子住江理事長)

### こみゅに亭カフェの開店

本年3月5日に「こみゅに亭カフェ」が開店しました。隣は横須賀おっぱまワインの醸造所です。店舗の中は、喫茶・軽食が20席ほど、「私のこみせ」という手づくり品等の展示販売コーナーが30区画。おっぱまワインはもとより、山形県白鷹町産の野菜、福祉作業所「風」の製品等も販売しています。それだけでなく、みなさまには教室や会合での利用や、ミニコンサート等のイベントなど、地域の拠点として活用していただく場でもあります。さいわい、明るく居心地が良いと評判をいただいています。なお、この店舗は追浜観光協会、追浜商盛会との共同運営となっています。奥にNPO法人アクションおっぱまの事務所を開設しました。

(昌子住江理事長)



開店日のこみゅに亭カフェ

## 活動の軌跡

### ～歴史資源の保存・活用のために～

#### 貝山地下壕見学会と案内パンフレットの完成

あんずの里貝山緑地の地下には、広大な地下壕が広がっていたことを、皆さんご存じでしょうか。

大戦末期、浦郷一带に展開していた海軍航空工廠の本部機構を移すために掘られた、全長 2000mにもおよぶA, B, Cなど3地区にまたがる長大な地下壕がありました。私たちNPOは、地元に残る貴重な歴史遺産としてできるだけ多くの方に知ってもらおうと考え去る3月20日、Y.フェスタ追浜のイベントのひとつとして地下壕見学会を、おっぱまはっけん倶楽部

の皆さんに協力する形で開催し、見学においでになった実に203名の方をご案内しました。また、広報用に“おっぱまの歴史遺産・貝山地下壕”なるA5版16頁のパンフレット1,000部を横須賀市の市民協働推進補助金制度を活用して数カ月かけてこの日に間に合わせて完成させ、取りあえず、見学の方々に配布することができました。当日、予約に漏れた方など是非見学したいという声も多数あり、今後も年数回程度見学会を行い追浜の町の隠れた遺産の紹介に努めたいと思っています。

(村澤醇治理事)



貝山地下壕見学のしおり

#### 第三海堡遺構 追浜で保存・公開へ

東京湾の走水沖に位置する第三海堡、以前は追浜の民間の土地に陸揚げされ保存されていました。見学したい時は事前に予約をして10名位で行くのが常でした。それがすぐ近くのグリーンバンク（アイクルの向かい）に移設されることになりました。地元では数年前より追浜に保存をお願いしていただけに大歓迎です。この7月～8月に掛けて大型起重機船で移動し早ければ10月に公開の運びになります。

第三海堡は明治25年に着工大

正10年に完成し大事業の末、残念ながら同12年の関東大震災で崩壊し、その後崩れた場所は漁礁として親しまれていました。海底40メートル余りから石積み盛り土された海堡は、歴史的に貴重な遺構です。さらに海底の石積みの一部に鷹取山の石が使われると聞いてはほっておけない気持ちで、各方面にお願いし国と市の裁量で実現した記念すべき遺構となりました。公開の後に、見学すれば先人の偉業に驚嘆されることでしょう。

(福島 仁副理事長)



第三海堡遺構



# ワイン研究会だより



おいしいワイン飲めるところ、葡萄畑ありが、これまでの常識でした。これをくつがえしたのがアクションおっぱまの基礎を作った横須賀おっぱまワインです。葡萄畑のない商店街にワイン醸造所が窓越しに見えるのです。追浜市民の皆様に見守られながらワイン醸造が出来るようになったのです。これは 1999 年の酒税法改正に由来します。直接葡萄の実を醸造せずに濃縮果汁のみでも醸造が可能になったのです。

21 世紀になり、追浜商業地域のシャッターの閉まった街並みを、何とか活性化したいと共同組合追浜商盛会と関東学院大学、昌子研究室との交流がワイン醸造のきっかけでした。

2004 年 3 月、ワイン醸造に詳しい斎藤俊幸氏（元関東学院大学非常勤講師）が地元の名産という

ことで「海洋深層水を利用したワイン」の醸造を提案しました。海洋深層水の発想は深海 6500 の潜水艇が追浜の海洋開発機構で開発されたからです。横須賀追浜ワインは日本初の商店街ワイナリーと海洋深層水の利用という 2 つの特徴で始まったのです。

2005 年 5 月 14 日、ワイン醸造の幾多の困難をのりこえて横須賀おっぱまワインの完成披露パーティーが盛大に行われました。

これ以降ワイン研究会を中心としたボランティアによって、ワイン醸造は紆余曲折を経ながらも丸 5 年を経て、順調に売りあげを伸ばしています。（現在は海洋深層水、取水中止により由緒ある走水の天然水を使用しています。）

（内野忠治監事）

## “協働を紡ぐ場” フォーラム開催

2010 年 3 月 12 日（金）の午後エルシャンテ追浜 5 階ホールにて“協働を紡ぐ場—活動拠点のつくり方・つづけ方”と題してフォーラムが開かれました。

活動拠点を持ちたい！拠点を作ったが行政の補助金がなくなり継続できない！まちに空き家や空き店舗が増えているが活動の拠点として活用できないか！そんな思いのみんなが集まりました。

まずすでに拠点運営をしている人たちがパネルディスカッションの形で事例の報告と情報交換をしました。“久里浜はとポッぽ”“NPO 法人アンガージュマンよこすか”“港南台タウンカフェ”それに我が“追浜こみゆに亭&ワイナリー”です。いろいろな拠点があるのだなあというのが素直な感想です。

その後 3 つのグループに分かれて活発な意見交換が行われました。お互いにより知恵の交換ができたように思います。かなり突っ込んだ議論が出ていたようです。

追浜こみゆに亭カフェのオープン記念フォーラムでもありましたのでカフェに移り、見学と交流会が開かれました。皆口々に時々このような集まりを開きたいね！とっていました。

このフォーラムは「平成 21 年度横須賀市市民協働推進の集い」の支援を受けて開かれました。

（吉田洋子理事）



ワークショップの報告



交流会の模様



## 大学連携コーナー

2009年7、8月に、関東学院大学の経済学部横森ゼミの学生が、追浜こみゆに亭の閉店後の時間を活用し、独自に考えたメニューでの営業やイベントなどを行いました。

期間限定で提供したカレーは、幅広い年代の方々に好評でした。イベントは小学生を対象に勉強会やスライム作り、和紙作りなどを行いました。参加した子どもたちは、服が汚れるのもかまわずにスライム作りに没頭していました。好きな色を付けて、みんな嬉しそうに持ち帰っていました。

期間は10日間だけだったのですが、常連さんができた時はとても嬉しく、振り返れば様々な経験をし、得られたものは大きかったのだと感じています。

今後も、大学と地域の連携プロジェクトは継続されてゆくことでしょう。

(水沢彰菜、矢部綾子)



スライム作りの様子

### 会報の愛称募集

この会報の愛称を募集します。編集委員会では「あんず通信」「追浜の風」「ワインの香り」「おっぱじめ〜る」「つどえ〜る」などが出ましたが、決まりませんでした。よい愛称がありましたら、ぜひ電話、FAX、メーリングリスト等でお知らせ下さい。次号でご報告します。

### 編集後記

本来2009年度中に2号出すべきものが、年度を越えてしかも合併号という形になってしまい、申し訳ありませんでした。2010年度は、年度内2回定期発行(9月、2月予定)を行います。会員の方の投稿もお待ちしています。

## イベントプレイバック

2009年	
10月2日	おっぱまワイン寄席(柳家喬太郎他)
12月5日	ナイトバザール もちつき(関東学院大生が協力) 横須賀おっぱまワインの販売
12月24日	おっぱまチャリティジャズコンサート (葉山美沙他)
2010年	
3月20日	Y・フェスタ追浜 貝山地下壕見学会、ワンデー博物館 横須賀おっぱまワインの販売
3月28日	こみゆに亭カフェオープンイベント おっぱまでハワイアン
5月21日	帰って来たワインの日 あつくんのギター弾き語り
5月23日	親子理科実験教室(HOPEGATE)



おっぱまでハワイアンの様子 あつくんのギター弾き語り



### こみゆに亭カフェ案内

営業時間

月～土: 11:00～18:30

定休日: 日曜日

☆追浜に関する情報コーナー  
もあります。気楽にお立ち  
寄りください



### 会報 2010年6月発行 1,2合併号

・発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま  
〒237-0066 横須賀市追浜町2-13

TEL 046-865-2625

FAX 046-866-2790

・発行人 昌子住江

・編集 内野忠治、菊地真紀子、昌子住江  
吉田洋子、水沢彰菜(関東学院大学)  
矢部綾子(関東学院大学)